

SICF19 グランプリアーティスト展

石川佳奈 『触りながら触られる』

会期 2019年1月7日(月) - 13日(日)

会場 ショウケース (スパイラル 1F)

自らの身体を社会に放り込み、現代を生きる私たちを風刺する



『どう生きたら良いのか (スペース) 分からない』(2018)
インスタレーション
「SICF19」EXHIBITION グランプリ受賞作品



『触りながら触られる』参考画像
新作イメージ『呼吸を合わせる』(2018)
HDビデオ 3分15秒
出演：石川佳奈、浜野基彦 (テアトル・エコー)

スパイラルは、本年5月に開催した SICF19 (第19回スパイラル・インディペンデント・クリエイターズ・フェスティバル) に於いて出展クリエイター150組の中からグランプリに選ばれたアーティスト・石川佳奈による個展

『触りながら触られる』を 2019年1月7日(月) - 13日(日) にショウケース (スパイラル1F) にて開催します。

情報技術の発達した現代特有の人々の思考や無意識的な身体行動に焦点をあて、言葉やペインティング、映像、インスタレーションなど、さまざまなメディアや手法で、社会現象に対する、ある種の抵抗から作品を制作する、石川佳奈。SICF19では、山手線全29駅の各駅の利用者に、「どう生きたら良いのか分からないんですが、どうしたら良いと思いますか?」とインタビューを行ない、その回答をまとめた映像と、Googleのロゴカラー4色のドットが配された白いブースをツイスターゲームのマットに見立て、スマートフォンで「どう生きたらいいのかわからない」と検索した結果をもとに、石川自身がツイスターゲームを行なう映像の2つを展示しました。あらゆる回答がインターネットで検索されてしまう世界に抵抗し、同じ駅に再び戻る山手線内での対面インタビューを通して、また、オンライン上で得た回答をもとに難しい体勢でゲームをし続けることによって、検索の外側にある思考を模索します。

石川は、全てをインターネットの検索に委ねる私たちの姿を戯画的に描き、観る者全てに批判の矛先が向けられていることを認識させる作品の強さが評価され、グランプリを受賞します。

本展は、「ワンダーシード2018」への入選、SICF19のグランプリ受賞など、近年の活躍が目覚ましい若手作家・

石川佳奈による東京・青山での初個展となります。

この機会にぜひご取材、ご掲載を検討くださいますよう、よろしくお願いたします。

ご掲載に関するお問い合わせは下記までご連絡ください。
スパイラル/株式会社ワコールアートセンター 広報部 浅野仁美
〒107-0062 東京都港区南青山 5-6-23
TEL 03-3498-5605 FAX 03-3498-7848

E-mail press@spiral.co.jp SPIRAL WEB <http://www.spiral.co.jp/>

出展作品について

本展では、個人間のコミュニケーションにおけるパーソナルエリアをテーマに、映像を用いたインスタレーションの新作を発表します。

あらゆる人が持つパーソナルエリアは、他人に近づかれると不快に感じる物理的空間や心理的空間をさします。石川はその境界を「膜」として捉え、個人と個人が関係を築く際、互いにその位置を移動させたり、強度を高めたりすることで、どこまでの介入を許すかという交渉を行なっているのではないかと仮定します。インタビュー映像では、石川本人とある男性の2人に対し、あらゆる角度から、過去の経験を含めたパーソナルエリアに関する質問を繰り返すことによって、その膜が立ち現われ、揺らく瞬間を捉えます。誰しもが意識的にも無意識的にも行なっている「人と親密になること」について改めて立ち止まり考える機会となるでしょう。

SICF19 審査員コメント

石田尚志（画家・映像作家、多摩美術大学准教授）

もともと工芸の勉強をされていただけあって、ファイルに収録されていたスマートフォンのスクロールをテーマにした親指筆跡絵画シリーズの繊細さとモノとしての強度がこの作家の根幹にあると思った。その微細な身体的運動が都市空間へと拡張され、今回の映像作品へと展開したのだろう。荒削りだが、その身体的な熱量を評価したい。モノとして結実することへの欲望と、形にならないことへの欲望が拮抗しているような作家の相反する側面が魅力だ。

藪前知子（東京都現代美術館 学芸員）

全てをインターネットの検索に委ねる私たちの現在の生は、すでに全てがあらかじめ自分たちの外に決められており、そのルールをたどっているだけ、と言えるのかもしれない。石川佳奈の作品は、その姿を戯画的に描きつつも、単なる風刺を超えているという点で、他の作品とは一線を画していた。彼女は、自身の身体を社会の只中に放り込み、その生々しい感覚を、居心地の悪さとして私たちの中に呼び覚ます。この作品を見る者全てが、自分自身に向けて批判的が向けられている、当事者なのだと思えることになる作品の強さは出色だった。

プロフィール

石川佳奈
Kana ISHIKAWA



略歴

1988年 東京都生まれ、東京都在住
2010年 女子美術大学 芸術学部 工芸学科 織コース卒業

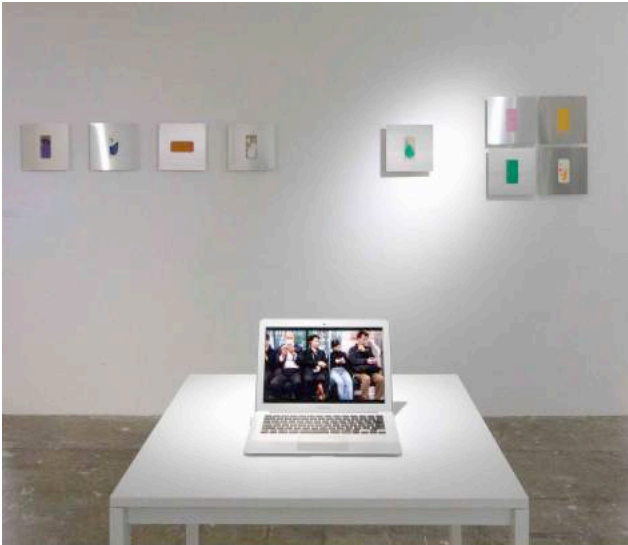
主な受賞歴

2018年 SICF19 EXHIBITION グランプリ受賞

主な活動

2018年 「ワンダーシード2018」
(トーキョーアーツアンドスペース本郷/東京)
2017年 「しんじてたものに凹(あな)があいてた」
(小金井アートスポット シャトー2F/東京)
2015年 「Pop Japan」(Me & Art/シドニー)
2014年 個展「衆」
(The Artcomplex Center of Tokyo/東京)
2013年 「Stella Nova」
(The Artcomplex Center of Tokyo/東京)
2012年 個展「依存性過剰プレゼント症候群」
(atelier bemstar/東京)
2011年 個展「もっと完璧な名前を頂戴★」
(admin gallery/東京)

参考作品：石川佳奈 過去作品



『You had me at scrolling
(スクロールをみただけで虜になったよ)』
(2017) インスタレーション



『wander with you』(2018) 紙にアクリル絵具、メディウム
W41.8 × D2.3 × H32.5cm



『透明コート』(「もっと完璧な名前を頂戴★展」より)
(2011) フェルト、糸 身丈 130cm

開催概要

SICF19 グランプリアーティスト展 石川佳奈『触りながら触られる』
 会期 2019年1月7日(月)ー13日(日) 11:00ー20:00 会期中無休
 会場 ショウケース(スパイラル1F)
 東京都港区南青山 5-6-23
 東京メトロ銀座線・千代田線・半蔵門線「表参道」駅 B1、B3 出口すぐ
 お問い合わせ 03-3498-1171 (スパイラル代表)
 入場 無料
 主催 株式会社ワコールアートセンター
 企画制作 スパイラル
 協賛 特定非営利活動法人青山デザイン・フォーラム

SICF (スパイラル・インディペンデント・クリエイターズ・フェスティバル)



スパイラルが若手作家の発掘・育成・支援を目的として2000年から開催しているアートフェスティバルです。ゴールデンウィーク期間中、公募によって選出された、さまざまなジャンルのクリエイターを紹介しています。2019年5月で20回目を迎えるSICFは、ブース出展形式の「EXHIBITION」と、パフォーマンス部門「PLAY」の2部門を展開、既存の価値観に捕われない意欲溢れるクリエイターを募集します。募集および開催概要の詳細については2018年11月16日にSICFウェブ(www.sicf.jp)で発表します。

SICF19 受賞者一覧

■ EXHIBITION

グランプリ:石川佳奈
 準グランプリ:大平真梨
 準グランプリ:Mimoko Wakatsuki
 石田尚志賞:村岡由梨
 金森香賞:内田聖良
 栗栖良依賞:しかとまいこ
 平田晃久賞:西川千尋
 藪前知子賞:Sacco
 スパイラル奨励賞:小野愛
 オーディエンス賞:TETSUJIN - AUDIO VISUAL
 (高橋哲人、モシ村マイコ)

■ PLAY

グランプリ:劇団子供鉅人
 栗栖良依賞:HOYAPAI 女将
 住吉智恵賞:入手杏奈
 中村茜賞:たくみちゃん
 山城大督賞:新庄恵依

受賞作品・審査員のコメントについての詳細は
 下記をご覧ください。
<https://www.sicf.jp/archives/sicf19/winnerslist/>